

令和6年度 第3回神戸市総合基本計画審議会 議事要旨

開催日時：2024年8月29日（木曜）13時～15時

開催場所：神戸市役所1号館14階 大会議室

出席者：

氏名	役職
飯田 裕生	連合神戸地域協議会 副議長
稻垣 賢一	一般社団法人 兵庫県中小企業診断士協会 理事
岩田 かなみ	株式会社W SoWeluコミュニティマネージャー
浦島 理恵	インスタグラマー
小野セレスタ摩耶	同志社大学 社会学部 准教授
嘉納 未来	ネスレ日本株式会社 執行役員（ヨーホー�レートアフェアーズ統括部長）
佳山 奈央	La vie est belle株式会社 代表（サードフロアSPORTOを運営）
河南 忠和	神戸市会議員（自由民主党）
客野 尚志	関西学院大学 総合政策学部 教授
國弘 正治	西日本旅客鉄道株式会社 理事（近畿統括本部・兵庫支社長）
久保 陽香	有限会社Lusie（元 神戸地域おこし隊）
佐合 純	iC株式会社 代表取締役
品田 裕	神戸大学大学院 法学研究科 教授
高瀬 勝也	神戸市会議員（公明党）
中野 みゆき	特定非営利活動法人 Oneself 理事長
中村 浩一郎	株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部長
ながさわ 淳一	神戸市会議員（日本維新の会 団長）
服部 孝司	公益財団法人神戸市民文化振興財団 理事長
飛田 敦子	認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸 事務局長
藤岡 義己	一般社団法人兵庫県中小企業家同友会 代表理事 (株式会社 イーエヌ・ソシエイティング 代表取締役)
森本 真	神戸市会議員（日本共産党 団長）
山下 裕子	全国まちなか広場研究会 ひと・ネットワーククリエイター／広場ニスト
よこはた 和幸	神戸市会議員（こうべ未来 団長）
和田 真理子	兵庫県立大学 国際商経学部 准教授

欠席者：

石川 路子	甲南大学 経済学部 教授
-------	--------------

1. 開会 司会 企画調整局 岡山副局長
資料説明、確認
2. 辻局長挨拶
 - ・本日は、非常に大きな台風10号の接近により、お足元が悪い中、御出席いただき、御礼申し上げる。
 - ・6月6日の第2回審議会でいただいたご意見をもとに、「貢献」の表現についてその対象を明確に想起できるような表現へ、また、産業・仕事の段落の中に、個人の成長の観点を入れ込むといった修正を行った。
 - ・最終的に品田会長にもご確認いただいた後に、6月21日から7月21日までパブリックコメントを実施し、最終的に11名から19件のご意見をいただいた。本日はパブリックコメントの内容も踏まえ、改めて委員の皆様から次期基本構想についてご審議いただきたい。
 - ・今回は次期基本構想に係る最後の審議会となるため、神戸市総合基本計画審議会の最終的な答申内容としてご意見いただきたい。併せて、来年度にご審議いただく次期基本計画についても、来年3月の事務局素案の公表に向け、全体のボリューム、必要な視点などのご意見をいただきたいので、よろしくお願ひする。

3. 議事進行

<事務局>

- ・資料2、資料3、資料4に基づき説明。

<会長>

- ・本日はまず基本構想に関して3点議論をお願いしたい。
1点目は、パブリックコメントでいただいた文言修正にかかる意見について、
2点目は、パブリックコメントでいただいた文言修正以外のご意見について、
3点目は、答申書の最終確認 という流れを考えている。
なお、今回は、基本構想にかかる最後の審議会となる。文言の修正があれば、この審議会で案を固め、事務局へ返すという流れになるので、その点御理解いただきたい。
それでは、まず1点目の、パブリックコメントでいただいた文言修正にかかる意見についていかがか。

(委員の発言なし)

- ・私のほうで、気になる点が2点ある。
1点目が「困難」という表現について、「震災」とはっきり書いてもいいのではないかとの意見があった。この「困難」とは、震災以外にも、水害等の様々な自然災害や、第二次世界大戦等も含まれている。震災というのは我々にとって一番大きな出来事ではあったが、直接的な表現とすると色々とお感じになられる方もいるかもしれない。ご意見いかがか。

<委員>

- ・「困難」で良い。若い方は新型コロナ、30代以上の方は震災、もっと先輩の方、例えば80代以降の方は神戸の空襲が頭にある方もいらっしゃると思う。それらをトータルして乗り越えて今があるといった今の表現のままで良いと思う。

<会長>

- ・異論なければ、ここは「困難」のままとしたい。
- ・もう一点だが、「絆」という言葉について、最近テレビ等で、色々な意味に使われている言葉になるが、この点についてご意見いただきたい。

<委員>

- ・「絆」という言葉は、いろいろな使い方をされている言葉であり、意味合いがプラスにもマイナスにも捉えられる。対案として「つながり」を考えていたが、これも引っかかっている。
- ・「絆」があったから困難を乗り越えたわけではなく、乗り越えられた結果として、絆に気付いたり、絆が出来たということではないか。今の神戸がある大きな要素は、国内初が神戸で確認されたSARSや狂牛病等の困難を乗り越えてきた体験であり、「絆」ではない。そういう体験・経験みたいなものを格調高くまとめられたらと思う。
- ・いろいろな困難を通じてできた「絆」もあるが、その困難をきっかけに気づいたという「絆」もあるので、今まで良い。
- ・私が所属する地域の自治会で、阪神淡路大震災の時に助け合ったという話を聞く。困難の中で出来た「絆」もあるだろうが、やはりもともとあった「絆」の側面もあるので、現状の「絆」のままで良いと思う。
- ・「絆」は糸偏の言葉。中島みゆきの「糸」という歌で、一人一人の糸がどんどん増え、それが縦の糸に横の糸と巡り合って太いロープになるという歌詞がある。それらがまちをつくりていき、歌の最後にあるような幸せに繋がるのであれば、私はいい表現だと思う。
- ・ここで表現したいのは、共助の心かと思うので、ともに助け合う、協力をしても乗り越えるといったキーワードが導き出したい。
- ・「絆」を辞書で引くと、人と人との断つことのできないつながり、離れ難い結びつきという意味で、少しここで表現したい意味とは違うと思う。代案の「結びつき」であれば、あるものとほかのものとの関わり合い、つながりといった場合場合で緩く接点を持つ意味になる。この段落最後の「全ての人を優しく受け入れる」に繋がるのは、「絆」より緩いつながりではないか。

<会長>

- ・事務局から何か意見はあるか。

<事務局>

- ・「絆」という言葉が入ることで、読んでいるとビシッと締まると思っている。「結びつき」や「つながり」という表現もいい表現だが、「絆」はよりずっと

流れる表現だと考えている。

<委員>

- ・「絆」は、震災のときに多く使われ、強いつながりという意味もあるならば別の言葉の方が良い。代案として「つながり」が出てきたが、第4段落にあり、また、糸偏の観点からいくと「織りなす」や「紡いでいく」という言葉も既に入っているため、「絆」をどうすべきか悩んでいる。これから外国人の方も増えるので、多様性の観点からいくと、「共助」とか「助け合い」のような少しソフトな表現が良いかと思う。
- ・「絆」という言葉がきついのであれば、「緩やか」といった言葉をつける方法もある。例えば、社会学とかでも「緩やかなつながり」という表現がよく使われる所以、「絆」にも「緩やか」をつけると違和感はないように思う。
- ・「糸偏」で思いついたのが「縁」や「所縁」という言葉。出会うのも多生の縁ということもあって、柔らかいいい雰囲気になるのでは。
- ・確かに3文字で締めた方がリズムが良いように思うので「記憶」はどうか。
- ・「絆」という漢字がイメージとしてきついのであれば、平仮名にしてはどうか。
- ・少し角度が変わるが、「幾度となく困難を乗り越えた」では、過去にフォーカスした表現。これからも色々な困難があるかもしれない「どのような困難も乗り越えていく〇〇」といった表現にすると、神戸の良さが困難に直面した時に活かされるといった表現になるのではないか。

<会長>

- ・「幾度となく困難を乗り越えていく」は良い表現だと思う。
- 時間の都合もあるので、「乗り越えていく絆」を暫定案として進めたい。
- 次に、パブリックコメントの文言修正以外の内容について、何かご意見があれば伺いたい。

<委員>

- ・2-2について、アンケートはワークショップの結果をまとめが生かせていない、過去の施策とか課題を明らかにして反映させてない、といった指摘に対して、直接的な回答になっていない。例えば25,000人にアンケートをしたとか、プロモーションに活用していきたいということは、1-1に回答したほうが良い。ここでは、過去の施策の課題の反映についてであれば、次の基本計画で継承しながらやっていくと記載すべきであるし、アンケートの分析もしているのであればその内容に触れるべき。

<会長>

- ・次に議事の最後、資料4、答申書について議論したい。

<委員>

- ・西暦と元号が混在している。

<会長>

- ・次は、次期基本計画策定に向けた必要な視点について議論したい。事務局から説明をお願いする。

<事務局>

資料4に基づき説明。

<会長>

- ・まず、ボリュームと計画期間について整理したい。
計画期間は、時代の変化に対応するため、現行の15年から10年に短くなる。
ボリュームは、現行106ページで詳細を記載したものだが、多くの方に読んでもらうため、30ページ程度を想定しているとのことが、意見を頂戴したい。

<委員>

- ・KPIを導入してはどうか。

<事務局>

- ・確定したものでないが、KGI (Key Goal Indicator) という、KPIにつながるゴールを重要目標達成指標として示していきたいと考えている。

<委員>

- ・コンパクトにする意向は良いが、ボリュームはこれから意見を取りまとめていく中で、今後、全体の総意で決めたら良いのでは。
また、生産年齢人口の減少により、税収不足や市民サービスの後退につながることが挙げられているが、そういう前提を決めるのはいかがなものか。世界の人口は2080年まで増え続けていく中で、人口減少は神戸のみならず日本全体の大きな問題であり、その課題ばかり気にすると、お先真っ暗にならないか。その対処方法ではなく、未来の方向性に対して、神戸をこれからどう合致させていくのかの論議をしていきたい。
- ・時代の流れが早いので、10年という期間には賛成。重点分野を中心にして方針も、市民に目を通してもらうという意味では有効だが、行政の立場として、重点施策を中心に書かれたものでまちづくりを進めていくのは少し気になる。

<事務局>

- ・10年とする理由の1つは、時代にスピード感が必要であるから。一方で、重点施策だけで全ての網羅は難しいので、この下位計画となる5年間の実施計画（ビジョン）で細かい施策を落としこみながら策定し、基本計画・実施計画のセットで、毎年実績評価を行うなど考えていきたい。

<会長>

- ・他に意見がないようなので、事務局提案の内容で進めていただきたい。
次に、必要な視点についてご意見頂きたい。

<委員>

- ・基本構想案の「一人ひとりが幸せを感じられるまちへ」というのはとても良い言葉。全ての神戸市民と、経済や福祉がよくなつてほしいといった色々な思いが結実したものなので、きっちりと計画にも落とし込んで欲しい。デジタル庁で地域幸福度指標とあり、各自治体のものが公開されているが、この取り組みを利用して、本市の位置付けや、市民の地域幸福の考え方を可視化していくのが大切。地域幸福度指標の考えを基本計画等でぜひ導入して欲しい。

<事務局>

- ・市民の方が一人一人幸せを感じられることが大事であり、どういう形で盛り込んでいくかも含めて検討させていただく。

<委員>

- ・資料に、一人一人の幸せが掲げられる社会の構築と、人口減少の記載があるが、端的に言うと「縮充」が今後のキーワードになる。人口が減つて縮んでいくが、充実させるという、前向きな捉え方ができる方向性も1つだと思う。
- ・10年先の神戸市の人口は、推計で136万人。2070年では約89万人で今の半分。税収が減るから縮小する方向で考えるのか、人口が半分に減るならば個人所得を倍にするために産業を引っ張つてくるという考え方になるのか、両方で考えていかないと神戸はしほんでしまう。
- ・人口が減る10年間の計画になるが、具体的に進めないと何も出来ないまま終わってしまう。人口は、区ごとで見ると中央区、灘、東灘、兵庫は減らず、垂水、西区などが減つており、区によって大きな差がある。区ごとの施策を分かりやすくして欲しい。

また、神戸市は、職員が20,000人、予算は外郭団体入れて2兆円を抱える大きな組織であり、神戸の産業への影響力は大きい。これから10年間は、神戸市が産業施策に積極的にボリュームをもって関わって欲しい。

神戸市の事業所は76,000程だが、ものすごい勢いで減っている。「幸せ」は生きがいを持って働いた結果だが、今後10年を見たときに、現在の神戸の産業状況では厳しい。神戸がもっと勝てるサービスの産業化をどう進めるかが大切で、思い切った発想で10年後に神戸のプレゼンスが上がる計画を策定していきたい。

- ・全ての方が幸せになるために、私は3つの取り組みが必要だと考えている。
1つ目は、海外の人が来て、働いてもらい、よりグローバルに貢献していくこと。そのためには思い切った施策を打ち出し、労働力を外国の方にカバーしてもらう必要がある。

2つ目は教育。現在、将来の不安がある子が多いと感じているが、私はともに将来を描いていけば未来は開けていくと信じている。そのために、我々がどう未来をつくっていくのかを子どもたちと議論しながら、神戸でこういう仕事、産業があるというのを伝えていく必要がある。

3つ目は産業の育成で、特にITと医療と福祉。海外の人も、障害のある人なども働く環境ができるくると思う。

この3つの産業の育成が欠かせないと思っており、こういった分野でトップに

なつていけば、人は集まつてくる。

- ・基本計画は、10年後のありたい姿を具体化するもので、課題ばかり並べるのはどうかという思いもあるが、最初に課題意識をしっかりと提示しているところは、30代前半の私やその下の世代にとっては、続きを読むくなる印象を受けた。

今、日本では、人口減や海外との物価の差、年金の問題などがある中で、よく同年代と「このまま神戸で仕事をして住んでいいのか」ということを話しているが、その時に、グローバルでおしゃれ、神戸はいいまちといった感じで書かれると、嘘くさく感じてしまう。

- ・文化、芸術を盛り込んで欲しい。先ほど「縮充」という言葉があったが、まちの活性化や未来、輝きといったものを担保していくには文化・芸術が不可欠。

また、小さなころから、文化・芸術を身につけていくことはシビックプライドにも繋がる。また、産業面でも、六甲ミーツ・アートのように、観光と文化・芸術が結びつき、外国人観光客を呼び込む要素にもなるので、神戸の1つのブランドとして大事に育てていきたい。

- ・人口減少と経済の縮小について、大学を卒業した当時、同年代の多くが「神戸は好きだけど働く場がない」とか、「自分のキャリアアップのために東京に行く」という理由で東京に出ていったのを思い出した。

ただ、神戸で実際に働いてみると、神戸の企業ですごく魅力的なところも多いと感じており、産業を盛り上げるのも大事だが、現状をまず知ることが大事だと実感した。

- ・人口減少時代の中、人と社会のありようを示すソーシャルキャピタルの考え方方が重要。生活の質の成長や幸せにつながっていくものだと思っている。その中で、世界各国の総合的な幸せ度をランキングするレガタム繁栄指数というデータがあり、日本はトータルの順位で16位と高いが、ソーシャルキャピタルの指標では141位と低くなっている。これは、友人や家族との関係、他人からの援助が受けやすいかどうか、社会・政治への参加度合いや政府への信頼などが考慮されたものだが、日本の暮らしの豊かさの割には孤独で、幸福度が低いことを示している。

しかし、神戸は震災後にNPOやボランティア活動が湧き上がってきた歴史もあり、国内でソーシャルキャピタルが高い地域ではないかと思っている。そういう点を比較優位としてうまく盛り上げ、伸ばしていくことが、人口減少社会で、生活の質を豊かにしていくためのポイントだと思う。また、地域協働の観点だけではなく、絆がある神戸の優位性をうまく活かすことができれば、企業は盛んになり、産業の発展にも繋がることになるので、ソーシャルキャピタルの視点は必要だと思う。

- ・普段、若者の起業支援に関わっているが、なぜ起業に興味を持ったか聞いてみると、「起業家や経営の方が楽しそう」「自由に生きているから」という回答が多く、それは身近に楽しく働いている人が少ないからではないかと思っている。子どもたちは、身近な存在に影響を受けやすいので、我々が楽しくやりがいを持って働く環境をつくっていくことが大事であり、働いている大人が大学や社会にもっと関わり、子どもたちがそういう人たちと出会うことで、神戸で働いていきたいという気持ちが生まれるのではないかと思う。その点では、

企業のリーダーとまちづくりの関係性構築が大事。

また、忙しく働いて孤独を感じていると、地域の活動に関わるきっかけや、余裕がない人が多くなると思っている。心に余裕があれば視野も広くなり、地域のボランティア等にも参加しやすくなると思うので、生き生きと働く仕事や産業といった環境をつくることが、一人一人の幸せを追求していくために大事。

- ・人口減少に関連し、兵庫区の人口が減らないという指摘があったが、兵庫区は留学生が多いから。ただ問題点として、留学生は1～2年で他区、あるいは他市に転居する人が多く、人口の増減は少ないが、居住者が入れ替わっている。留学生はアルバイトで労働力の一部を担っているが、最近は日本の会社でありながら、日本人が全くいない会社でアルバイトをする留学生も増えている。そういう会社では、シフトの入れ方や深夜残業の手当がないなど、雇用の問題を抱えるケースもあり、留学生はよりよい働き先を目指してアルバイトを転々とすることもある。

また、神戸市では外国人の起業支援も行っているが、アルバイトのときに、そういう雇用問題に直面した方が起業すると、自分が与えられなかつたものを他人に与えるという視点が落ちてしまいがちなので、そういう面も含めた起業支援が必要。

- ・関係人口を意識すると、違った視点が出てくる。知る機会の提供であれば、授業のようなものだけでなくても良く、例えば神戸市は恐らく日本で一番道路をパブリックスペースとして広場的に使うチャレンジを進める自治体であり、そういう空間で不特定多数の方に、自身の都合に合わせて情報に触れてもらうことが出来る。様々な場所で、若者が知る機会を積極的につくってプログラム化していくことが必要。
- ・東京や大阪は企業が多く、企業同士の交流等も多いが、非常に多いからこそ巨大になり過ぎて、自分の友達になるような人と出会うのは難しい。その一方で、神戸は、色々なことを試したり、人と繋がることもできる良い規模であり、この規模で幸せになるためにはどうしたらいいか皆で考えていくとともに、企業同士の連携を深め、企業の壁を越えて人材育成や諸課題に取り組んでいきたい。
- ・働くところがない人は定着しない。私の会社でも、20代以下の世代は、未婚で身軽であるため、普通に会社を辞めており、会社は働きやすい環境にしていかないとすぐに見限られてしまう。辞めた人たちとは、その後神戸の企業だけではなく、他都市の企業にも就職する。行政に期待するのは、ブラック企業を無くし、働きやすい会社にしていくことを積極的に押し出して欲しい。
- また、働き方改革とずっと言われているが、親会社が改革を進めると、その子会社や取引先にしわ寄せが来ている。そういうことがないまちには、結婚して、子どもができ学校に通わせる現役の子育て世代が定着するのではないか。労働力の減少に関しては、私は女性やシニア、外国人の労働力や、AIを含めたロボットの活用の4つでカバーしていくしかないと思っている。ただ、外国人の労働者が増えると、治安について不安に思われる方もいるので、気にして欲しいと思う。
- ・働く場所という観点で言うと、私もたまたま新卒で入った会社が全国的な規模で、私は神戸にいたかったが、配属が東京になってしまった。また、娘たちも

神戸で働きたかったが、たまたま入った会社が名古屋に本社があり、そこに配属されてしまった。やはり働く場所が近くにあるのは、人口が定着するポイントの1つであり、働く場所をいかにつくり出していけるかというのがこれから課題。

・計画策定にあたり、教育だったら教育委員会、経済のことだったら経済観光局で検討を進め、悪い縦割りで決められた内容や数字が出ても、子どもたちは喜ばないと思うので、神戸にあるシンクタンクを活用してもらいたい。

また、基本構想策定にあたり、子どもたちにアンケートをとったが、そのアンケートの対象だった子どもは、10年後も神戸の取り組みを見てくれていると思うので、頭の固い計画の内容はやめ、夢と希望がある内容にしてもらいたい。

<会長>

・前向きな内容というのは、皆さん一致していると思うが、その他にも様々なキーワードがあったと思う。

私が今日思ったのが、1つは質的な成長をすることによって産業を維持し、税収を稼いで、行政サービスを低下させない良い循環をつくるのが理想であるということ。

もう1点は、他都市と比較されたときに、やはり誇れるような、生き残っていく要素が必要だが、これは他都市から人口を取り合うということではなく、「選ばれるまち、神戸」になるということ。

また、最初の方でお話があった、まちづくりにおいて、空港との性格づけをどうするかということも非常に重要な問題かと思う。

欠席された委員の意見を紹介させてもらうと、地域協働の在り方に関連し、行政サービスへの行政と市民の関わりについて、人口減少のもと、今までのように市役所があって、地域があって、自治会があってという構造が維持できなくなる中で、新しい市民と行政の関わり方をどう構築していくかが重要。いろいろな力を使い、地域も大事にしながら、地域外の力も使うといった視点がいいのではないかといった意見があった。

<委員>

・神戸の課題にどうしても着目しがちだが、もっと広く日本を捉えると、東京も人が集まっているという面はいいかもしれないが、人が集まり過ぎて暮らしづらい、地価が高くて家を持つのも大変で狭い、といった現実の課題感があると思う。兵庫県内であれば、北部は過疎化が進み、行政サービスもままならなくなっていく中で、兵庫県の中の神戸として、神戸に10年先を見据えて来てもらうとか、兵庫県の行政サービスを神戸が担っていくといった、他の自治体の課題に対しても神戸は答えを考えていくといった視点も大事ではないか。

<会長>

・なかなか他都市との関係について神戸市の計画で書くのは難しいところもあると思うが、考え方として、基本構想にもある通り、「神戸に関わる全ての人をやさしく包み込みます」とあるので、柔軟にそういった要素が取り入れられる

よう考えていただきたい。

<委員>

- ・先ほど縦割りというキーワードが出てきたが、地域や起業支援をしていく中で割と縦割りだと感じることが多い。全てを行政で解決することは難しいので、地域や大学、企業、行政が手を取り合って、縦割りにならないように皆で協力していくことを表明し、そこに向かって歩んでいきたいと思う。
- ・3点あって、1つ目は、計画策定時に一生懸命市民参画プロジェクトをされているが、策定後に放ったらかしにしていることが散見される。市民と一緒に、計画策定後も進んでいくということを計画の中に盛り込んで欲しい。
2つ目は、計画策定を色々な関係課と一緒に取り組んでいくが、当事者の方は熱い思いをもっているものの、関係課になると「へえ、そんなのあったんだ」といったトーンになることが多いので、市職員自身が熱く市のことを考えられるプログラムづくりも重要だと感じた。
3つ目は、子育て世代のうち、特に子どもが小学生以降になると、親の転勤以外の理由で、他地域に移ることはなかなかない。子育て世代に神戸に住んでもらえれば、子どもが小学校に通う間は移動しづらいので、気がつくと定着している。子育て世代をがっちり掴むというのがすごく大事で、神戸に住みやすいからずっとといいたいと思ってもらえるような取り組みが必要。
- ・私からは2点ある。
1点目は、資料5ページに記載のある、市民所得の向上は市場経済的、所得再配分は計画経済的な書きぶりかと思っているが、人口減少下では、非正規雇用が増えて市民所得や再配分もしんどいという現状がある。そこで、どちらの要素もある分かち合い経済や、非課税経済とも言われる贈与経済も含め、計画経済と市場経済を補完する形で充実してきている実情もあるので、これから先行きが見通せない時代の中で柔軟に考える視点もあっても良いと思う。
2点目は、産業界は産業界だけ、教育界は教育界だけ、子育ては子育てといった単体でやっていくような時代ではないと思う。地域協働とあるが、地域だけではなく、いろいろなところが協力をしながら強みを活かし、レバレッジを効かせていくという姿勢を、この中に盛り込んでいくと良いと感じた。
- ・地域社会を守っていく視点は非常に大事。私は現在ある団地の自治会の管理組合理事をしているが、高齢化とともに人口減少もあり、空き家も増え、理事も80代以上で役割を担えなくなってきた。管理会社に頼むと、地域社会が希薄化するという懸念もあり、地域課題を地域住民が自発的に克服していく力を守っていく必要があり、これからの人口減少社会にどう対処していくのかも課題であると思う。

<会長>

- ・ちょうど時間となったため、この辺で終わりたいと思う。
大変貴重な意見をお聞かせいただき、感謝申し上げる。
- 本日は、基本構想と基本計画に必要な視点の2点について議論いただいた。
基本構想については、これまでの議論を踏まえた答申書を作成し、9月9日に

市長にお渡しする。

基本計画は、今日の議論を参考に、事務局で来年3月公表予定の素案に向けて再度検討を進めていただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

それでは、進行を事務局にお返しする。

<辻局長>

- ・本日は大変活発な御議論していただき感謝申し上げる。
- ・品田会長には大変難しい舵取りをしていただきながら、基本構想や基本計画に対してもいろいろな御意見をいただいた。基本計画については、委員の皆様の御意見を参考にさせていただき、素案をつくっていきたいと考えている。
- ・いずれにしても、現状認識と課題認識をしっかりと共有することを踏まえたうえで、この10年は次の10年、また次の10年につながっていく計画という大前提があるため、我々も子供や孫の世代にしっかりとこの社会を残していくことを胸に刻み、その思いをしっかりと共有しながら市役所全体として取り組んでいきたいと思っているので、今後もぜひともよろしくお願ひしたい。

閉会 午後3時00分